

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスセンターちぐさのいえ		
○保護者評価実施期間	R7年1月21日		～ R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	R7年1月20日		～ R7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内いくつか事業所があり、公用車の確保や事業所間の協力体制がとれる。	事業所間の交流、活動への参加(ヨガ、さつまいも掘り、寄せ植え体験等)顔を出し、普段から良い関係を保っている。	時間がある時は他の事業所のお手伝いに行き、交流の継続をしていく。
2	事業所が街の中にあり、スーパーや病院、公園などが多くあり、長期休暇中の外出の活動を多く取り入れて活動内容は豊富である。	社会資源を活用して活動の場を広げ、様々な遊びや体験活動の提供をしている。児童の特性を考慮して、安全に外出出来るように人員や滞在時間の検討の実施。戸外での活動が困難な児童でも参加支援をしている。	今後も児童それぞれの特性を考慮しながら児童が喜ぶような計画を模索し、活動の機会を取り入れていく。ボランティアの活用も考えていく。
3	児童一人ひとりの特性にそった支援をしている。	児童の状況に応じて日課を柔軟に変えている。帰りの会を全員参加で行っている。	職員の質の向上。子ども達が仲良く参加活動出来る取り組みを考慮していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の構造や設備(部屋数、広さ、調理スペースがない等)により活動が制限される事がある。	走り回る児童にとって危険だと思ふ場面がある。不穏な状態の児童への環境工夫。	法人内の他事業所のスペースを活用したり、外での活動や公共施設等の活用をしていく。
2	OTなどの専門職がない。 男性職員がない。	職員は全員資格保持者だが、障害児支援の経験が少なくさらに技術を上げる必要がある。	研修会への積極的な参加や事業所内でのケース検討、他事業所への見学をしていく。
3	部屋中に色んな声(子ども職員も)が飛び交っている。	個人的に話が必要な場合でも、離れた所から大きな声で話しかけている。日課にも口を出しすぎている。	近くまで行き、子どもが聞こえる声で伝える。おやつをセルフにし、職員は見守りで対応をする。(食べた子は自分で○、食べない子は×を付ける)